

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300743		
法人名	社会福祉法人心愛会		
事業所名	ハーモニーみどりヶ丘ソレイユ		
所在地	福島県郡山市緑ヶ丘東6丁目26-1番地		
自己評価作成日	令和4年2月1日	評価結果市町村受理日	令和4年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和4年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな住宅街に位置し近くには幼稚園、小学校、郵便局、コンビニエンスストア、スーパー、外食店舗病院、交番などがあり恵まれた生活環境です。事業所ではコロナ禍でなかなか外との交流が深められない分毎月季節を感じられる行事を多く取り組んでいます。また、下肢筋力の低下を防ぐための歩行運動、趣味活動や家事など個々に役割を持っていただき「できること」の支援にも取り組んでいます。状況を確認しながら感染者が少ない時期にタイミングを合わせ、感染対策を徹底し外出支援を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1.理念を具体的に実践しケアに活かしている。
全職員に法人理念入りの手帳を配布し、年1回行う法人の理念研修で共有に努めている。また、地域密着型の意義を踏まえた事業所理念もあり、申し送りや職員会議などで唱和して浸透を図っている。実践についても話し合うなど取り組みを深化させ、具体的な支援につなげている。
2.利用者を尊重し身体拘束をしないケアへ取り組んでいる。
身体拘束廃止委員会が中心となり年4回チェックリストで不適切ケアをしていないか振り返りの機会を持っている。不適切ケアの啓発ポスターを2か月毎に新しく作り、掲示することで職員に注意を促すなど身体拘束の廃止や不適切なケア防止に向け組織的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時法人理念の手帳が配布され、法人で理念に対する研修を全職員対象に行っている。事業所では申し送り、職員会議、カンファレンス等に事業所理念の唱和を実施し浸透を図っている。	全職員に法人理念入りの手帳を配布し、年1回行う法人の理念研修で共有に努めている。また、地域密着型の意義を踏まえた事業所理念もあり、申し送りや職員会議などで唱和して浸透を図っている。実践についても話し合うなど具体的な支援につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍でボランティアの受け入れはできていないが利用者から各ボランティア団体に感謝の手紙を書き送付した。返信があり、コロナが落ち着いたら来訪していただけたとの約束をいただくことができつながりを深めることができている	コロナ前に受け入れていたボランティアの方々に利用者の提案でお手紙を出し、返事をもらい再開を約束している。また、利用者と一緒に地域のゴミ拾いを行うほか、地区の清掃活動には職員が参加している。小規模の利用者とゲームや懇談で交流をする等コロナ禍にあっても地域とのつきあいを続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センターや、東部中田にある事業所の協力のもと開催していた「オレンジカフェ」の開催は中止となっている。運営推進会議にて利用者の生活状況を報告している。又知りたい情報等提供している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	コロナ禍で運営推進会議を開催できない月があったが運営状況等郵送で推進委員に送付しており必要時助言をいただいたりサービスの向上に努めている。	コロナ禍で状況により書面開催の時もあるが委員が出席した会議も開催している。委員からヒヤリハット・事故について起きた時間、場所、原因など分かりやすい資料を示して欲しいと意見が出され、分析したところ、予防に役立つなど運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ感染予防のため介護相談員の派遣が中止となっている。行政とは必要時随時相談、情報を共有している。	介護保険等分からないことがあった時に相談している。コロナ感染防止のためゾーニング用のカーテン設置費用を補助金で対応したり、非接触型体温計、マスク、消毒物品など物資面で行政の協力を得て対応をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束廃止委員会を開催し年四回「虐待・不適切ケアチェックリストアンケート」を行い職員会議で振り返りを行っている。又、委員会で啓発ポスターを作成し日々のケアを見直せるようにしている。	法人の身体拘束防止指針があり、身体拘束廃止委員会が中心となり年4回チェックリストで不適切ケアをしていないか振り返りの機会を持っている。不適切ケアの啓発ポスターを2カ月毎に新しく作り、掲示することで職員に注意を促すなど身体拘束の廃止に向けた取り組みを組織的に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年4回アンケートを行う中で問題になることについては職員会議で話し合い虐待がないか注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関して現在対象となる利用者がいない。 熟知している職員と知識が浅い職員との差がある。必要な制度があれば積極的に関係者と相談して活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明を行う際不明な点がないように確認している。質問は契約時だけでなく随時対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のかかわりの中でお客様の意見や要望は把握している。面会時等に、意見要望をお聞きしたりしているまた年1回家族様にアンケートを行い意見、苦情、要望を把握し運営に反映させている。	毎年家族アンケートを行い、職員の対応・訪ねやすいか・要望や気がかりなことが無いかなど把握するようにしている。面会や電話の時も要望を聞いている。職員の電話の切り方など接遇面で要望があり、職員会議やミーティングの時話し合い是正に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の前にアンケートを配布し意見を収集したりカンファレンス、個別面談を通し要望を聞き運営や職場改善に反映させている。	職員会議の前に、職員に改善事項等のアンケートを行い、それを会議のテーマとして率直な話し合いが持たれている。誕生会の食事、利用者に合わせたケアなど検討され、運営に反映している。管理者、法人の面談でも意見を聞く等職員の声を尊重している	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の取り組みを行い給料水準に反せさせている。又目標管理シートを作成してもらい本人のやりたいことに向けた支援も行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で外部研修の参加は難しいが法人内研修や施設内研修に参加できる機会を作りスキルアップにつなげている。 法人内で基礎研修や、実務者研修も実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内研修、介護技術コンクール、事業所の取り組み報告等行っており、働く仲間との交流意見交換する場があり意識を向上させる機会がある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時本人様の困りごとや、要望などをよく聞きケアプランに反映させ安心してサービスが受けられるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時ご家族の困りごとや、要望などをよく聞きケアプランに反映させ安心してサービスが受けられるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、ご家族より聞き取りを行った際最も必要とされる支援を見極め提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることはご自分で、できないことは職員と一緒にすることにより共に学び尊重しあい、支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等で情報共有を行いながら支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染予防対策のため長時間での面会ができないが窓越し面会や希望があればリモートでの面会もおこなっている。又家族とは手紙や電話で連絡がとれるように支援している	コロナ禍で外出や訪問が制限を受けているが、そのなかで窓越しの面会、電話での会話をしたり、家族と馴染みの美容院、通院で外出している。利用者の笑顔の写真と担当職員のお手紙を添えて広報誌を毎月送るなど家族との関係が継続できるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が親しく交流できるように利用者同士の相性、力量を見極め職員が間に立って支援している。それぞれの利用者ができることを支えながら行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要時、ご家族や本人様、他事業所に情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族と日頃の会話の中から意向を聞き取りサービス内容に反映させている。	利用者担当が利用者の要望や様子、変化など書面にまとめており、それを基にカンファレンスを行い職員全体で思いの把握に努めている。また、新年の抱負、七夕の短冊などからも思いをくみ取っている。困難な場合は家族に聞いたり表情からくみ取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス導入前の初回アセスメント時本人様ご家族からの聞き取りを行っている。又日々の支援のなかで知り得たことは連絡ノートに記載し職員が情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にあセスメントを行っていくことへの支援を確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時、職員同士でモニタリングをしてきずいた事を共有。介護サービス計画を見直している。サービス計画を立てる際は本人、家族から意見を聞き反映させている。	計画担当はミーティング時に職員から気づきを出してもらい、それをモニタリング表にまとめている。介護計画は利用者、家族から要望を聞くとともに、主治医の意見も参考に原案を作成しカンファレンスで検討して策定している。計画は短期目標3か月、長期目標6か月で見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、GH連絡ノート日誌に記載されている情報を共有し、よりよいケアができるようにプランを見直している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様のニーズに合った柔軟な支援ができるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	充実した援助内容ができるように地域資源の把握に努めている。 かかりつけの医院・理容店など家族の協力もあり支援できている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、ご家族の希望に沿った医師を受診している。事業所内で訪問診療を受けている方もいる。	入居時、受診について話し合わせ、利用者の希望する医療機関を決定している。事業所と医療機関との情報交換は「受診結果連絡票」をもって行なわれている。かかりつけ医の受診は、家族対応が原則で、結果は、家族より事業所に伝えられ、情報の共有を図っている。訪問診療医は月2回の往診があり、結果は、家族に報告される。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活で気になることは担当医師や看護師に相談し、適切な受診や看護が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提供、電話での状況確認を行い情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時意向を確認している。 重度化した場合医師を含めご家族と話す機会を持ち事業所でできることを理解していただいている。	入居時に「重度化した場合における(看取り)指針」を基に事業所としての対応について説明して、利用者、家族より同意を得ている。また、医師が終末期と判断したときは、利用者がその人らしく最後を迎えられるよう家族、医師、職員等が話し合い協力して看取り支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修で救命講習を開催しており冷静に対応できるように訓練している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災計画の沿って自主的訓練を行っている。 地域と防災協定を結んでいる。 災害に備えて食料や水の備蓄がある。 緊急時対応マニュアルや連絡網を作成している。	防災訓練計画表が「人命の安全、被害の軽減を図る」を目的に策定され、火災、地震、風水害等の避難訓練を昼、夜間を想定し実施している。訓練は防火管理者の指揮により職員の役割を明確にし実施している。また、地域の方々による協力体制が出来ている。非常時用備蓄品として食品セット、ブルーシート、毛布、ヘルメット、ホッカイロ等が準備されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年4回アンケートを行う中で問題になることについては職員会議で話し合い虐待がないか確認している。意識づけのため事業所内で啓発ポスターを張り出している。	利用者一人一人の生活習慣や生き方、考え方を職員が理解し、言葉遣いや態度に配慮しつつ、日々の生活に採り入れ、人格を尊重しプライバシーの保護に取り組んでいる。「接遇マナー」「コミュニケーション」等の研修を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択するような場面ではお客様本人が行えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り本人様のペースに合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容や、馴染みの理容店を利用している。本人が希望する髪型など相談しながら行っている。 季節ごとの衣類を家族に依頼している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	野菜作り、収穫。調理の下ごしらえ。毎月の手作りおやつなどできる範囲内の協力をいただいている。	調理の下ごしらえ、後片付け等を利用者と一緒にに行い、参加したときは掲示してあるお手伝い表に○をつけるなど利用者の意欲を引き出している。食材は委託業者を利用しているが、昼食は同法人の特養で調理したものを提供している。食事を楽めめるよう手作りの一品を提供する他、行事食、おやつを工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取が足りない時など情報を共有し家族に嗜好品を持参いただき提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の習慣や有する力を活用しうがいや歯磨き等の支援をし清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人様の排泄パターンに合わせた声掛けにより日中はトイレ案内を行っている。夜間は状態に合わせた支援を行っている。	利用者個々の生活習慣、排泄チェック表を参考にし、排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮し、トイレへの声掛け、誘導支援を行っている。日中は、可能な限りトイレでの排泄を支援し、夜間は、オムツ等を使用する方もいるが、出来る限りセンサーやポータブルトイレを利用して自立排泄につなげる支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	軽体操、歩行運動等の運動や、水分ゼリー、毎朝食のヨーグルト、ヤクルト等提供便秘時には冷水、腹部マッサージを行っており自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	季節に合わせて、さくら湯、菖蒲湯、ミカン湯、各地温泉剤を使用して入浴を実施している。又、軽音楽を流すことによりリラックスを促している。	入浴は、週2回を基本とし、利用者の希望や体調を考慮し調整している。入浴を楽しめるよう、音楽をかけたり、職員との会話など工夫している。季節感のある、桜湯、菖蒲湯、みかん湯、各地の温泉入浴剤等を採り入れ支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様の生活習慣にあった起床時間や就寝時間を考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情ファイルが作成されており分からない時は確認している。薬の追加や変更があった場合状態変化に気を付け必要時、担当主治医や看護師に連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の力を見極め生活歴を把握しながら洗濯たみ簡単な調理の下ごしらえ等のお手伝いなどの役割や読書、散歩、嗜好品を楽しむなど気分転換の支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍であり外出支援がなかなかできない状況であったが天気の良い畑作業や中庭で近隣に住む方との交流はある。(サ高住)	年間行事予定は策定されているが、コロナ禍の中、計画通りの外出支援は、出来ていない。しかし、花見、紅葉見学等は、感染防止を行い出かけている。また、天気の良い日には、事業所での畑作業や中庭での外気浴等を楽しんでいる。理容は、訪問又は、行きつけの美容院に家族と出掛けられている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止のため事業所への持ち込みはご遠慮いただいている。急な場合事業所で立て替えをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば対応している。家族から来た手紙等代読の支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除や換気、室温管理等行っている。リビング内は季節を感じられる飾りつけなど工夫している。	リビングや廊下等の共用空間には、花の貼り絵、塗り絵、行事の写真、おひさま通信、手作りカレンダー等が飾られ心休まる、ゆったりした共用生活空間がつくられ、安らぎながらその人らしく過ごせる場となるような工夫と配慮がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室やリビングで過ごされる時間は一人ひとり自由に過ごしていただいている。気の合う同士で居室で話をしている姿も見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切に本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	入居時にはできるだけ馴染みの物を持ってきていただけるようお願いしている。ご家族の写真、家具、籐芸品など利用者様の大切な思い出と一緒に居心地よく過ごせるようにしている。	利用者個々の居室には、家族と相談の上、自宅で使い慣れた馴染みのあるタンス、衣装ケース、テレビ、時計、家族、親戚の写真、配偶者の遺影等が飾られ、落ち着きのある自分だけの生活空間が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前に名前プレートを設置。自分の部屋として認識できるようにしている。(トイレも同様)		